下野市立古山小学校

１　学校課題

主体的に学習に取り組み、物事を多面的・多角的に考えられる児童の育成
～道徳の授業における多様で効果的な指導の工夫～

２　研究計画

（１）主題設定の理由

本校の児童の多くは、自分の目標をもってその達成に向けて努力しようとするが、困難や失敗に直面すると諦めてしまう傾向が見られる。自分に適した目標を設定し、見通しをもってよりよい自己を実現しようとする向上心と結びつけていきたい。また、相手に対してよかれと思ってしたことが、かえって相手を傷つけることになってしまうことに気付かず、自分の思いを押し付けてしまうこともある。思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくり、相手の立場を考えてやさしく接することの大切さに気付かせたい。さらに、自分と異なる感じ方や考え方を受け入れることができず、相手に対して偏った見方をすることで、いじめの問題につながってしまうことがあった。人間の弱さを乗り越えて自他の不正を許さない断固とした姿勢をもち、差別や偏見を積極的になくそうとする努力をさせていきたい。それに伴い、かけがえのない生命の自覚や、命を大切にすることの意義を理解し、決して軽々しく扱われてはならないとする態度を身に付けさせたい。

そこで、本年度は、道徳科の授業において、道徳科の特質を生かしながら児童の多様な考えを引き出す授業展開や、ＩＣＴ端末の効果的な活用、児童の発達段階や特性、地域の実情を考慮した多様な教材の活用についての研究を組織的に行っていく。そうすることで、主体的に学習に取り組み、物事を多面的･多角的に考えられる児童を学校全体で育成していくことができると考え、この研究主題を設定した。

（２）研究の仮説

仮説１（道徳科の特質の理解）

教師自身が道徳科の目標や道徳性の本質、内容項目の性格を正しく把握し、指導の基本方針を理解する。問題意識をもたせた上で、「自分との関わり」を重視した学習展開の工夫、多様な指導方法の研究を通して、教師の授業力向上を図る。多面的・多角的な思考を促し、自己の生き方についての考えを深める道徳科の特質を活かした授業づくりを推進する。

仮説２（授業研究）

児童が自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための指導を工夫する。導入や発問、板書構成を吟味し、自我関与を深める手立てを学年・ブロックで考え、実態に応じた多様な指導法を選択する。また、一人一台端末の効果的な活用や対話、書く活動を通して、自分の考えを豊かに表現し、学び合う場面を設定することで授業の質を高める。

仮説３（道徳的実践に繋げる指導）

道徳教育推進教師を中心に、全教職員による組織的な指導体制を構築する。教材コーナーの整備や掲示物の充実を図るとともに、重点項目に応じた「別葉」を活用し、計画的・発展的な指導を推進する。各教科や学校行事等との関連を重視した指導を展開することで、授業での学びを日常の道徳的実践へと繋げていく。

３　研究内容

（１）仮説１、仮説２、仮説３への取組

仮説１（道徳科の特質の理解）

教師が、道徳科の目標及び指導の基本方針を理解し、児童との信頼関係を基盤に、児童が道徳的価値（公平さ、誠実さなど）についての理解を深めることができるような指導方法の工夫や学習過程を構想することで、児童が自らのよさや成長を実感できるようになるだろう。

仮説２（授業研究）

教師が、教材やねらいとする価値についての理解を深めたり、指導の多様な展開や指導方法の工夫をしたりすることで、児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合いながら自分との関わりで道徳的価値について理解したり、自己を見つめたりすることができるだろう。

仮説３（道徳的実践に繋げる指導）

道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実を図ることに加え、各教科、特別活動、およびその他教育活動における道徳教育との密接な関連を保ちながら、これを補充、深化、統合していくことで、児童の道徳的実践力を高めることができるだろう。

（２）研究授業を通した主題への取組

月日	学年	教材名	課題追究のための手立て等	児童の姿
９/１０（水）５校時	５年	「くずれ落ちただんボール箱」	・中心発問で、「やってよかった」「やらなければよかった」という二つの立場だけでなく、その間にある曖昧な気持ちを表現することができるように、ICT 機器を活用した。心の数直線を操作し、お互いの意見を見せ合うことで、多様な考えに触れることができるように工夫をした。	・心の数直線の活用により、話合いが活発になった。グループで意見を発表した後、「みんなの意見を聞いて気持ちが変わった人はいる？」など、話合いをコーディネートする姿も見られた。 ・親切という行為について、「やってよかった」「やらなければよかった」というどちらか一方の視点だけでなく、その間にある気持ちについて様々な角度から考えることができた。
１２/１７（水）５校時	全学年	学年で同じ教材を使用 ※小中一貫教育研修授業公開で実施	・学年で同じ教材を使用したが、学級の実態に合わせてねらいを変更し、発問も精選した。	・学級の実態に合ったねらいや発問だったため、どのクラスの児童も意欲的に取り組んでいた。道徳的価値について深く考える姿が見られた。

４　本年度の成果と課題

（１）研究の成果

全校体制で共通理解を図り、指導案検討会を行ったことで、教師の道徳授業に対する苦手意識を軽減させることができた。ねらいの明確化や発問の精選により、物事をより多面的・多角的に捉えることができるようになり、児童が自分の経験と照らし合わせながら、道徳的価値について深く考え、新たな納得解を得ている姿が見られた。

（２）研究の課題

内容項目や、ある特定の道徳的価値にとらわれてしまい、関連する道徳的価値について授業内で扱えないことがあったため、中心価値や関連する価値について教師自身の考えを明確にする必要がある。クラスの実態に応じた授業づくりができるような校内研修体制を確立したい。